

# マイバッグ運動の有効性

2009/01/30

国際教養学部 国際教養学科

S108055 高木 彩

## \*目次

1. 問題の背景 …P2
2. 目的 …P2
3. 問題の概要 …P2~4
  - (1) マイバッグ運動とは
  - (2) マイバッグの定義
  - (3) マイバッグ運動の実情
  - (4) レジ袋とは
  - (5) ポリオレフィンフィルムの特長
4. 期待される効果 …P4~5
5. もたらす弊害 …P5~6
6. マイバッグ運動の取り組み例 …P6  
名古屋の取り組み
7. 検討 …P6~7
8. 今後の課題 …P7
9. 引用文献 …P7
10. 参考文献 …P8

## 1. 問題の背景

現在、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどでは買い物の際、購入した持ち帰り商品を入れるために、レジ袋がレジ係の人から無料で渡される（場合が多い）。このレジ袋とはビニールやポリオレフィン等の材質で作られた袋のことで、軽くて丈夫なことから、買い物かごに取って代わって普及した。

今では、国内で年間 300 億枚、一人当たり 300 枚近く使用している。だが、95 年に容器包装リサイクル法が制定され、ペットボトルやガラス瓶などと同様、削減・再利用の対象となった。また、07 年 4 月に施行された改正容器包装リサイクル法において、小売業者にレジ袋等の削減対策の実施が義務付けられた。これらに伴い、レジ袋は家庭から出るプラスチック製容器包装ごみの一割を占めることから、有料化を通じて削減すべきとの方針が打ち出された。

近年では、レジ袋税によるレジ袋の有料化やそれを受けてのマイバッグ運動などによって削減しようとする動きがある。このマイバッグ運動とは、小売店での買い物の際に買い物袋の持参を呼びかける環境保護運動である。レジ袋を受け取らずに買い物袋を使うことによって、環境に悪影響を与えるレジ袋を削減しようというものだ。

しかし、マイバッグやエコバッグと称される買い物袋の原材料や流行の問題から、この運動が環境問題を改善するという本旨からかけ離れているとの指摘も存在する。

## 2. 目的

レジ袋とエコバッグを社会的に重要なゴミ削減の観点から比較し、マイバッグ運動の有効性について考える。

## 3. 概要

### (1) マイバッグ運動とは

スーパーマーケットやコンビニエンスストア（以下、小売店）などでの購買時に、買い物袋の持参を呼びかける環境保護運動。

持参した買い物袋を使い、レジ袋の受け取りを断ることで、レジ袋削減に繋げるのがねらい。エコバッグを使っている人たちの中には、環境問題への対策としての意識が高い者と、単に家庭ゴミを減らしたい者とが存在する。

3Rのうち、Reduce(リデュース)にあたる。

### (2) マイバッグの定義

購買時に持参する買い物袋をエコバッグといい、エコバッグは自分のバッグを持ち歩くことから、マイバッグと呼ばれることもある。

もともとエコバッグという言葉は、「素材の選定など製造の段階から、使い終わった後のリサイクルに至るまで、環境に配慮しているバッグを指すことが多かった」<sup>1)</sup>。(財)日本環境協会によるエコマーク認定品のエコバッグなど。

現在では、さまざまな企業ブランドからエコバッグが販売されており、流行化している。基本的にエコバッグは商品なので、今あるエコバッグの多くは、レジ袋と違いナフサではなく石油から作られる。ただしこれはエコバッグの種類による。

また、持ち手がしっかりしているので運びやすさは抜群。

### (3) マイバッグ運動の実情

背景にもあるように、最近よく見かける一部のエコバッグ（例えば折りたたみタイプなど）は合成繊維を用いているので、結局のところは石油を消費してしまう。また、その原材料もレジ袋とは違うタイプのものであるため、厳密に何倍とは言えないが、少なくともレジ袋1枚とエコバッグ1つでは、エコバッグはより多くの石油を消費している。

エコバッグが流行したことにより、ブランド物のエコバッグやデザインエコバッグなども出てくるようになった。本来のマイバッグ運動は、『今あるものを使い余分なゴミを出さないようにする』ことなのだが、人々がマスメディアの影響によって関心を持つことで、気に入ったエコバッグをおしゃれとして購買・所持、要らなくなれば廃棄を繰り返すという違った意味でのマイバッグ運動が問題となっている。

### (4) レジ袋とは

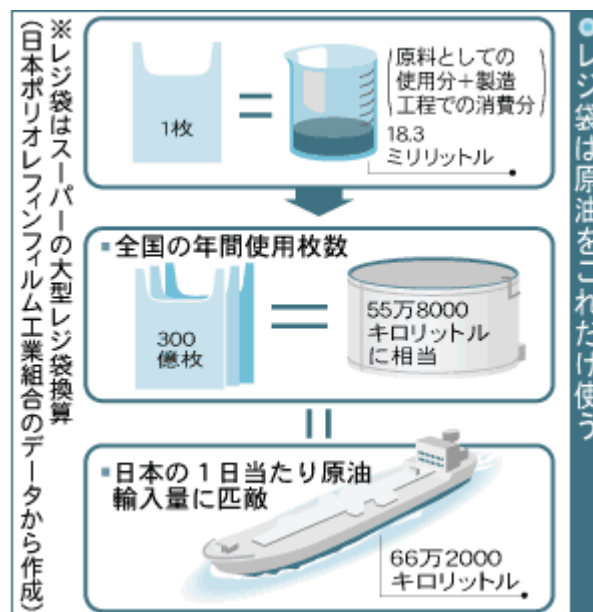
レジ袋とはいわゆる『ポリ袋』である。ポリエチレンやポリプロピレンで出来ていて、その性質上、燃やしても塩化水素などの有害なガスは発生しない。

ポリエチレンやポリプロピレンといった合成樹脂を総称して、POF(ポリオレフィンフィルム)と呼ばれる。

#### ● ポリエチレン

炭素と水素から出来ていて、ナフサから精製される。レジ袋や小袋、ごみ袋、お米や塩・砂糖などを包装している袋、おしぼりの袋などに利用されている。

#### ● ポリプロピレン



精製方法はポリエチレンと同じ。パンやお菓子、乾燥食品などに使われる袋やクリーニング店の包装などに利用されている。

#### (5) ポリオレフィンフィルムの特長<sup>2)</sup>

1. 燃やしても有害なガスなどを発生させない
2. 軽く、薄く、丈夫
3. 毒性を含まず安全、衛生的
4. 防水性・防湿性に優れる、耐油性や耐薬品性がある（有機溶剤を除く）
5. 透明度があり、着色や印刷の自在
6. 安価で経済性に優れる

### 4. 期待される効果

#### (1) 環境面

##### ● ゴミの削減

小売店での購買時にもらえるレジ袋は、家に帰ればいずれゴミに変わる。これの受け取りを断ることで、余分なゴミを削減できる。これは廃棄物処理費用の削減やゴミ処理場の延命、施設数の削減にも繋がる。

また、エコバッグに入る分だけを買うので、衝動買いや買い過ぎによるゴミも減る。

##### ● CO<sub>2</sub>の削減

ゴミが減ることにより、ゴミ輸送時に排出されるCO<sub>2</sub>が減る。加えて、廃棄物をそのまま焼却処分した場合に排出されるCO<sub>2</sub>の削減にも繋がる。

##### ● 資源の消費削減

レジ袋を利用しないことで、レジ袋の原料となる資源(POF)の消費を抑えることができる。POFは原油から出来ているので、限りある資源である原油の消費も抑えられる。その製造のためのエネルギー、輸送エネルギー、廃棄エネルギーの抑制にも繋がる。

#### (2) 経済面

##### ● コストの削減

現在日本は、POFの原料であるナフサを輸入している。レジ袋を削減すれば、ナフサの需要も減り、輸入にかかる費用は削減できる。また、小売店でのレジ袋の利用頻度が下がることで需要が減り、生産量も減るので、発注・搬送・管理コストも減る。

● 客一人当たりの来店回数の増加

エコバッグには大きさに限りがあり、一度にたくさん買い込むことが出来ない。エコバッグに入る分だけを買うが、生活水準を維持するためには一定期間に買う商品の量を維持しなければならない。よって、来店回数が増え、来店客数も伸びる。

ただし、一度に買う商品の量が少ないコンビニでは、このような来店回数の増加=来店客数の伸びは見込まれない。

● エコバッグ売上高の増加

流行化により、消費者側が短期間の間に新しいエコバッグを購入する傾向があるため、企業側はその分売り上げが増える。

## 5. もたらす弊害

### (1) 環境・経済面

● 氾濫するエコバッグ

エコバッグの流行化により、エコバッグを「おしゃれの一部」とする考えが広まってきた。企業やブランドはさまざまなエコバッグを製造販売し、人々は「おしゃれ」として短期間の間に複数のエコバッグを購入し、流行遅れと感じれば廃棄する。

これによって、エコバッグ需要の増加による資源の浪費やコストの増加、ゴミの増加が起こる。

● ゴミ・ポリ袋需要の増加

レジ袋自体が自治体推奨ゴミ袋の代替品として使用できる場合、新しくゴミ袋を買わなければならない。ゴミ袋の需要が高まることで、ゴミ袋の生産数も増え、結局は資源の節約にはなり得ない。

またレジ袋には、ゴミ袋としての使用以外にも、「車内ゴミ入れや草むしり、学校・保育園での着替え入れ、汚物入れ」<sup>3)</sup>など幅広い用途がある。レジ袋をもらわなければ、これらにはレジ袋の代わりになるものが必要となり、購入せざるを得なくなる。

● 自家用車におけるエネルギー消費の増加

来店回数が増えることによって、客が自家用車で買い物へ行く場合、車のエネルギー消費（つまりガソリンの消費）が増える。

### (2) 安全面

● 衛生度の低下

汁物や魚の切り身などをポリ袋に入れずに直接マイバッグへ入れた場合、衛生度の低下や菌の発生も懸念される。

## 6. マイバッグ運動の取り組み例

### ■名古屋の取り組み

#### (1) 市内共通還元制度「エコクーびょん」

参加店でレジ袋や紙袋を断るなど環境にやさしい行動をすると、市内共通のシールがもらえるというシステム。

シールを20ポイント分集めると、50円分のお買い物券として利用したり、EXPO エコマネーと交換できる。これにより、マイバッグ派の消費者も増えた。



#### (2) レジ袋有料化

2007年10月から緑区で開始された「レジ袋有料化促進モデル事業」をベースに、平成22年までに全市にレジ袋有料化の取り組みを広げていくという計画がある。

エコバッグなどに入りきらない大きな商品や、持ち運びが難しい商品には、別途専用の袋が用意される。

#### 【名古屋市内で使われるレジ袋】

年間10億枚（7000トン）

#### 【事業開始後、10～12月の3ヶ月間のお断り数】

88%=649万枚（45トン）の削減

## 7. 検討

メリットの(1)環境面にある「ゴミの削減」に着目し、検討する。

メリットでも挙げたように、エコバッグを使用することでレジ袋の消費量が減り、需要量も格段に減る。実際、市内共通還元制度「エコクーびょん」を実施している名古屋市でも、事業開始前に比べ88%のレジ袋削減に成功している。

また、レジ袋を受け取らずにエコバッグを使うことによって、再利用されないレジ袋自体の他、買いすぎによる無駄なゴミも削減されると考える。購買量が減るため、必然的に家庭では家庭ゴミが減り、全体では焼却・埋め立て処分するゴミが減る。

しかし、デメリットで挙げたように、エコバッグの流行化によって関心をもつ人が増えたというメリットの裏には、企業戦略が隠されている。企業は、流れに乗ってブラン

ドオリジナルのエコバッグをいくつも製作・販売することで売上高を上昇させ、消費者は「おしゃれ」と称して複数のエコバッグを無駄に購買・所持する。流行遅れだと感じれば廃棄し、新しいものを購入する。「あるお店に買い物に行く時は、そのお店のエコバッグを持っていく」「エコバッグを汚さないように中にレジ袋を入れて使う」という人までいるそうだ。これでは、エコバッグ需要増加に伴う資源の浪費やコストの増加が考えられ、エコバッグの意味がない。

以上のことから分かるように、レジ袋を使わずに、1つのエコバッグ何度も再利用することはゴミ削減に繋がり、環境問題への効果も期待される。しかし、余計なエコバッグをもらったり、必要以上に多く所持し廃棄したりすることは本来のマイバッグ運動と相反していると言える。

よって、一度手にいれたエコバッグを何度も繰り返し使うというマイバッグ運動の主旨に沿った持ち方をしている場合の有効性は高いだろう。レジ袋にしてもエコバッグにしても、ゴミ削減において大事なことは、繰り返し使い安直にゴミにしない工夫をし続けることである。

## 8. 今後の課題

- ・全体を通して文章がまだ拙いと感じるため、文章能力を身につけたい。
  - ・エコバッグ1つが原油約何ℓなのか、またレジ袋を約何枚以上使い捨てればエコバッグの方が実質的にエコであると言えるのかを計算することが出来なかった。
- 以上2つを今後の課題とする。

## 9. 引用文献

- 1) [http://eco.goo.ne.jp/word/life/S00237\\_kaisetsu.html](http://eco.goo.ne.jp/word/life/S00237_kaisetsu.html)
- 2) <http://www.pof.or.jp/>
- 3) <http://homepage3.nifty.com/earth60/top.htm>

## 10. 参考文献

- ・(財)名古屋市リサイクル推進公社発行『なごやかりサイクル No.34』
- ・グリーン・フォワード メールマガジン No.1
- ・「なごや環境大学」実行委員会編『なごや環境ハンドブック 《下巻》』 2008年
- ・フリー百科事典ウィキペディア

- <http://www.env.go.jp/recycle/yoki/index.html>
- <http://www.meti.go.jp/policy/recycle/>
- <http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20080722/165960/>
- <http://www.city.nagoya.jp/kurashi/gomishigen/sakugen/ecocoupyon/>